

狭山にゆかりのある文化人紹介 その21

童話・紙芝居作家 ^{なかむら} ^{るみこ} 中村 ルミ子 1955(昭和30)年～

1. 経歴・狭山市との関わり

東京都で生まれる。女子美術大学附属中学校高等学校で学び、
公立女子短期大学卒業。結婚後、狭山市に移住し 1979(昭和44)
年から2021(令和3)年まで42年間在住する。現在は青梅市に住む。
高校生の頃から童話や小説を書きたいという夢を持つ。育児の合間
に童話の創作を勉強し、童話を出版する。その後、新狭山ハイツの「あ
おやぎ文庫」に出会い、紙芝居の面白さを知る。紙芝居講座等に通
い脚本を書くことから始め、絵も描くようになる。狭山市に関する紙
芝居を9作刊行している。2023(令和5)年、川越市で開催された「第
18回 全国紙芝居まつり」の実行委員長として活躍する。



2. 主な業績

★童話作品 子育ての中、創作意欲に駆られ、日本童話会発行(後藤檜根主宰)の『童話』に投
稿する。1989(平成元)年、全国児童文学祭に『アカネの忘れ石』が入選する。その後、「福島
正実記念 SF 童話賞」で『ママがエリコでエリコがママで』が受賞し本格的に作家デビューする。
1992(平成10)年、『勝手なケイ』(岩崎書店)を刊行するなど多くの作品を制作。

★紙芝居作品 右手和子さん(紙芝居実演・研究家)の講演を聞き、紙芝居の面白さに出会う。
「共感し合ってメッセージを伝えられる」と、紙芝居を演じる楽しさに魅了される。童心社主催の紙
芝居作家塾で脚本の勉強から始め、子ども向け紙芝居の脚本を書き5作品が童心社より出版される。
その後、脚本だけではなく絵も描くようになり作品を発表していく。大人向けの『おっぱい山』や高
齢者向けの作品にも幅を広げ、NPO 団体や社会福祉協議会、行政からの依頼を受ける。そして、『も
も子さんとオレオレ詐欺』は、警視庁生活安全部長より感謝状を受ける。また、地域の昔話や年中
行事をテーマに作品化している。

★狭山市に関連した作品 『ユリおばさんと成年後見制度』・『二十三夜さま』・『射留魔の里』・『た
なばた食堂』・『広瀬斜子織ものがたり』・『義高と大姫のやくそく』・『しゅっぱっぱのおもちつき』・
『とおかんや』・『四十五年分の涙』、以上全9作品がある。

3. 特筆

自称、社会派作家である。今後も高齢者や障害者、子どもから大人まで、あらゆる世代に楽しんでもらえる紙芝居の
創作と実演を目指している。「紙芝居を通して、子ども達に
ふるさとを大切にする心を育んでほしい。“学校に紙芝居を”
という活動が始まっているので、広げていきたい」という。



〈参考文献〉『語り継ぎたい狭山の魅力』さやま協働ネット講座3

『広報さやま・躍』2013年7月号 文責：小川豊子

編集後記

★文化祭の頃は連日20度以上あって気持ち良かった。全体のプログラムが
今年は置いてなく心配だったが、熱心なお客様もあってありがたかった。
年々小規模となって、少し寂しい文化祭に感じられた。

★市民芸術祭「世界の珍しい楽器がやってくる！」私はインドネシアバリ
島で聴いた打楽器演奏の「ガムラン」の響きが何年たっても忘れられず、
今回も楽しみに。

★文化探訪3回目の今回は「広瀬斜子織」。全て会報委員が実際に出向い
て記事にまとめました。次号もどこに行くか思案中。乞う御期待。

(高沢正夫)



文団連HP
www.bunren.org